

令和6年度 研究委員会「道徳教育実践研究事例原稿公募」の結果について

研究委員長 田沼茂紀

令和2年度より研究委員会主宰事業として実施している「道徳教育実践研究事例原稿公募」について、会員各位の深甚なるご理解と積極的なご応募を賜り、研究委員会として厚く御礼申し上げます。

さて、この度応募いただいた実践研究事例原稿を研究委員会内にて「実践研究事例掲載検討についての内規」に則って採用の可否を検討させていただきました。応募実践研究事例原稿は2編（分類Ⅰ「道徳科授業の工夫」が1編、分類Ⅱ「道徳教育カリキュラム・指導体制の工夫」が1編）でしたが、「内規」に照らして詳細まで審議させていただいた結果、今年度は残念ながら掲載該当者なしという結果となりました、ここに謹んでご報告申し上げます。

なお、本事業では最終的に実践研究事例原稿を1編のみに絞り込むといった発想は全くもっておりません。あくまでも「実践研究事例掲載検討についての内規」に則っての可否判断となります。また、掲載に至らなかった実践研究事例原稿については今後の再投稿に向けて研究委員会各委員よりの改善提案コメントを投稿者にお示しさせていただいております。積極的なご応募いただいた皆様に改めて御礼申し上げますとともに、今後も多くの実践研究事例原稿の投稿をご期待申し上げます。

*参考までに、実践研究事例原稿ご執筆の際に留意いただきたい事柄を以下に示させていただきます。

- ①その実践研究に取り組む際、執筆者が前提とした問題意識は何でしたか。そして、何を明らかにしようと実践に組まれたのですか、また、その成果はどうであったのか明確に述べられていますか。
- ②その実践研究を進めるにあたり、他の先行事例や先行研究等を確認しながら追試可能な客観性ある方法や手続きを経て執筆されていますか。
- ③その実践研究で導き出した成果や効果の妥当性は、他の追試でも実証可能なものとなっていますか。
- ④その実践研究を考察する際、論理的な飛躍や信憑性等で疑念を抱かれるような取りまとめとはなっていないですか。
- ⑤その実践研究事例は会員のどなたが一読しても、取り組みの全貌が容易に理解できる記述表現となっていますか。

せっかく取り組まれた実践研究事例原稿です。平易で読みやすく、論理的な記述構成になっていて、その成果検証を自分も追試してみたいと思ってもらえるような実践研究内容となるよう是非とも心がけていただきたいと思います。

*研究委員会では、実践研究事例原稿が数編まとまりますと学会ホームページ掲載だけでなく、『道徳教育実践研究事例論集』（第1集は令和5年度既刊）として取りまとめて刊行することも視野にしています。また、投稿原稿の取りまとめ方については、令和3年度より「オンライン論文執筆セミナー」を開催しています。それ等もご参考に、奮ってご応募くださいますよう宜しくお願い申し上げます。